

日付：2025年 8月 26日（火）

今日の行き先

No	TOPIX	媒体	解説	活用・リストアップのヒント
1	ドイツの研究所など指摘 照明が健康損なう懸念 について	日経 15 創客・ 医療保障	- 照明の普及は文明の基盤を築いたが、都市の過剰な光が健康や生態系に影響を与える「光害」が懸念されている。 - 米国研究によれば世界の夜空は毎年約10%明るくなり、星の数が減少している。ドイツの研究では弱い光を1カ月間湖に当てるとシアノバクテリアが約30倍増加し有害物質を生成する恐れがあるとする。ブルガリアの調査では夜間が明るい地域に住む人は睡眠障害や抑うつ傾向が高いと示された。もちろん、因果関係の断定には追加研究が必要であるが、過剰な照明が人々の健康や動物の生態系に被害を及ぼす可能性が見えてきた。	■ 本日の話題として活用 ■ お客さまの生活スタイルの話題から、その課題(例えば生活スタイルの乱れ)に波及し、保障のニード喚起、さらには、保障の最新化・最適化を訴求など
2	生保4社銀行出向廃止へ 情報漏洩受け 窓販25年目で転機 について	日経 1 生命保険 ・ニュース	- 生命保険大手4社は、銀行など代理店への営業目的の出向を原則廃止する方針である。 - 背景には、2024年度に43万件の顧客情報漏洩や、日本生命社員が出向先銀行の内部情報を持ち出した不祥事がある。 - 現在、大手4社は計約250人を出向させ、銀行経由の保険料収入は約4400億円と営業職員経由の4700億円に匹敵する規模だが、出向廃止により情報管理を強化し、商品力による競争へ回帰するという原点に立ち返る。	■ 保険会社の話題として活用 ■ 自社の健全性や他社との違い、優位性等を説明等 ■ 話題をきっかけに、自社の保障の優位性やポイントを説明、保障の訴求につなげる
3	認知症の人に 優しい製品を について	日経 2 認知症 ・介護	- 日本では認知症・軽度認知障害(MCI)の高齢者が1000万人を超え、「認知症とともに歩む時代」が到来している。 - 政府は24年12月に「認知症施策推進基本計画」を策定し、希望を持って自分らしい生活を続けられる「新しい認知症観」を掲げた。経産省は認知症当事者が製品開発に参画する仕組みを推進し、トヨタやYKKなど40超の企業が採択されている。市場規模は2030年に987億円、2050年に5312億円へ拡大すると推計され、官民連携で育成が求められる。	■ 介護(特に認知症)の話題として活用 ■ 認知症保険のニード喚起と保障の訴求(若年層にも) ■ 介護の保障もあわせて訴求
4	医療費増、「高齢化」 減速後も 新薬や技術 進歩で「高額化」 について	日経 5 医療保障 ・ライフ	- 医療費は22年度46.7兆円で年2~4%増、40年度に63兆円へ拡大見通し。 - 人口動態要因は30年代にマイナスへ転じるが、新薬普及で費用は増大する。がん薬剤費は10~50倍に高騰し月50万円超が一般化、超高額レセプトも13年度比6.4倍の2156件に増加している。よって、高齢者の増加ペースが鈍っても医療費は増え続ける見通しとなる。治療費高騰への対応を怠れば、国民負担は抑えられない。	■ 話題から、ご自身がセカンドライフを迎えた際の自助努力の必要性を訴求し、保障の最新化やセカンドライフを見据えた積み立ての訴求など

市況情報※

日経平均/前日比	42,807.82/ 174.53	定期預金金利(1,000万以上/10年)	0.500%
TOPIX	3,105.49/ 4.62	国債(5年)/前日差	1.155%/ 0.000
ダウ平均	45,282.47/ ▲349.27	国債(10年)	1.615%/ 0.000
上海総合指数	3,883.56/ 57.80	米国債(10年)	4.275%/ 0.022
ドル円	147.33-35 1円27銭高	中国国債(10年)	1.764%/ ▲0.018

今日は何の日

・オリジナルジグソーパズルの日⇒ 東京都調布市のシャフト株式会社が制定。同社が製造・販売を手がけるオリジナルジグソーパズルは、写真から世界でたった一つのジグソーパズルを製作するもので、その魅力を多くの人に知ってもらうことが目的。日付は8と26で「パ(8)ズ(2)ル(6)」と読む語呂合わせから

・人権宣言記念日

誕生日うらない

本日生まれの方の特徴：寛大な心と優しさを持ち安心させるタイプ

長所

・計画性がある
・社交的
・想像力が豊か

短所

・優柔不断
・飽きやすい
・極度の方向音痴

誕生花：ムクゲ

花言葉：信念・新しい美・デリケートな愛・尊敬

誕生日
カラー
緑色



詳細はこちら

本日の深掘りウォッチ：最新医学でわかった新健康常識カラダに良いこと 悪いこと（照明を・・・！？）

どんな本!?

食事や運動、睡眠、疲れ、老化など、厳選された100のテーマに対し、世界の医療研究で証明された健康習慣の「正解」が掲載！

例えば、「死亡リスクを高めないお酒の最適量って週にどのくらい」といった問いかけから、「安全な飲酒量なんてない！少量でも死亡率を上げる」という結論を世界の論文やガイドライン等を根拠に解説。わかりやすく図解等を含め、計100の事象を紹介（図回答を活用し、クイズ形式になっているのはパート1まで）。健康リスクから始まり、食・運動・生活習慣、ストレス・疲労回復、メンタルまで



販売情報は、
QRコード
にてご確認
ください



テーマを紹介

テレビや照明をつけたまま寝る女性は太りやすい！？

⇒答えは、YES！

調査期間内に**体重が5キロ以上増加**する確率が ① %高かった

研究では、参加者の女性を夜間の人工光への暴露（ALAN）の程度に応じてグループに分けた。

人工光の光源は、小型の常夜灯や時計付きラジオ、窓から差し込む街灯の光、テレビ、室内用照明などさまざま

対象



女性（35～74歳）
43,772人

論文



米国医師会の医学誌
「JAMAインターナル・メディシン」に掲載
（2019年6月10日）

調査機関



米国立環境衛生科学研究所

期間



5年間
の追跡調査

原因

- 睡眠を促すホルモンであるメラトニンの分泌が光によって抑えられた結果、概日リズム（体内時計）や食事パターンに混乱が生じた可能性がある、論文執筆者らは示唆
- この他、光が、食物摂取量の調節に関与するグルココルチコイドなどストレスホルモンの分泌を妨げる「慢性ストレス因子」として作用している可能性や、代謝に直接影響を与える別のメカニズムが働いている可能性も
- さらに、人工光への暴露量が多いことは「社会経済的に不利なことや不健康な生活習慣があることなどさまざまな尺度も反映しており、これらすべてが体重増加や肥満の一因となり得る」という